

事務局報告事項

1 推進計画で設定した数値目標について

(1) これまでの委員会における議論

アンケート実施項目及び実施結果について（平成 21 年度、平成 25 年度）

子どもの権利推進計画における成果指標について（平成 22 年度、平成 26 年度）

権利条例に基づく取組状況報告の審議（平成 23 年度～平成 27 年度）

(2) 設問設定の経緯等

○「自分のことが好き」

平成 21 年度のアンケート実施に際し、権利委員会委員の提案により、子どもの自己肯定感を図る設問として提案があり、事務局案に追加する形で設定。

類似例等：

- ・「子ども支援と子ども参加のまちづくりに関する日本・韓国及び国連の総合的比較研究」（平成 22 年度文科省科学研究費事業：代表 喜多早稲田大学教授）

設問：「自分のことが好きだ」

選択肢：そう思う、まあそう思う、あまりそう思わない、そう思わない

- ・川崎市実態調査

設問：「あなたは、自分が好きですか。」

選択肢：すき、だいたいすき、あまりすきではない、すきではない

○「体験しやすい」

本市の子育て施策としての指標でもあるが、大人と子どもの意識の違いを図る必要があるとの権利委員会委員の提案で、子どもに対しても設定。

○「権利が守られていると思うか」

設問は市長政策室が毎年実施しているもの。設問の設定としての問題点はあるものの、経年変化を追っていくものとして引き続き採用した。

○ 本市の質問票は資料 3-2 のとおり。

2 平成 26 年度取組状況報告における修正について（資料 3-3）

面前DVを除いた「参考値」を内数として記載し、面前DVによる件数増加の影響が明らかになるよう表記の修正を実施した。